

第48回(大阪)

スガ国際ウェザリングシンポジウム2008

東京講演に引き続き、国内外を通じてウェザリング技術の国際的権威の方々に講師に招き、ご講演頂きました。

300名を超える多数のご参加を賜り、盛会のうちに無事終えることができました。ご聴講頂いた皆様並びに講師の先生方、役員をはじめご尽力頂きました多くの皆様に厚く感謝し、深く御礼申し上げます。



開会のご挨拶 春山志郎評議員会議長



超満員の会場

主催
テーマ
後援
協賛

財団法人スガウェザリング技術振興財団

ウェザリング技術の国際最新動向

文部科学省

(社)高分子学会 (社)色材協会 (社)自動車技術会 (社)日本ゴム協会

(財)日本ウェザリングテストセンター 日本プラスチック工業連盟 (社)表面技術協会

開催日時 2008年11月18日(火) 10:00～16:00

場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 特別会議場
大阪市北区中之島5-3-51

講演内容 1 自動車内装及び外装材料の耐候性評価

日産自動車(株)

技術開発本部 材料技術部 高分子・機能表面材料グループ

小田 崇

自動車の内外装部品には多くのプラスチックが使用されているが、これらの耐候性を評価して、自動車を使用される環境下における耐久性を正しく見積もることが重要である。本講演では、自動車用プラスチック(ポリプロピレン)の耐候性評価方法の考え方と耐候性改善方法について解説。



2 自動車における化学物質管理の動向と対応

トヨタ自動車(株)

車両技術本部 材料技術統括部 品質監査室主幹

坂田 勲

EUのELV指令による4SOCの削減対応がようやく一息つく一方で、REACH規則の施行、日本の化審法改定の動きと更なる化学物質管理が必要になってくると考えられる。求められる化学物質管理の変化の流れと今後の自動車部品・材料における対応について示した。



3 私は促進耐候試験を何時間行えばよいか？

ISO/TC61(プラスチック)米国代表

Warren Ketola

屋外暴露1年に相当する促進耐候試験は何時間か？は最もよく受ける質問である。この質問に答えるために行ったアプローチ及び仮説と、仮説が間違っている場合に起こりうる誤差について述べた。製品が特定の屋外耐久性に合致していることを90%信頼するのに必要な促進試験時間を求めるモンテカルロモデルの使い方、また、試験のばらつきの影響の解消・試験時間縮小・信頼性などへの手順について述べた。



4 プラスチックの自動車部品への応用と展望

トヨタ自動車株式会社

車両技術本部 第2材料技術部 有機材料室

永井 隆之

自動車においても、人や環境に配慮した取り組みが不可欠である。特に、樹脂材料は、自動車1台に占める割合が体積で50%を超える現在、軽量化、バイオ化、リサイクル性などに貢献しながら、信頼性、安全性、快適性、低コストといった背反する命題に応える必要がある。今までの延長線上の取り組みだけでは対応できない状況にきており、材料メーカー・自動車メーカーの開発段階からの連携強化の重要性が一層高まると考える。



5 米国自動車業界における屋外暴露試験

AZTEST President

Joe Robbins

現在行なわれている自動車内装材料試験用の各種屋外暴露試験の方法を紹介すると共に、暴露装置の構造、換気、ブラックパネル温度、ガラスの種類についてそれらと比較した。各試験法が互いにどのように相関しているか、データを示しながら説明。また、米国自動車業界において現在行なわれている自動車内装材料の屋外耐候試験を併せて紹介。



閉会のご挨拶 春山志郎 評議員会議長
金属腐食メカニズムの講義を交えられ、ご来場者
並びに講師の先生方への謝辞を述べられた。

敬称略

懇親会の風景

講演会終了後、懇親会を行いました。須賀茂雄評議員による乾杯の発声の後、講師の先生方を囲みご歓談、熱心にご質問される方々などで、にぎやかな会となりました。

